

**主 題：主を喜ばせる人になる：栄光を現わす**  
**聖書箇所：詩篇 19章**

詩篇19篇のみことばを見ましょう。「神の栄光を現わすこと」、これこそ被造物の使命であると、そのことはみな知っています。また、そのために皆さんは歩んでおられ、生きておられると確信します。しかし、このようなことを考えたことはありますか？「私を通して神の栄光は実際に現われているのだろうか？そもそも、私たちは『神の栄光を現わす』ことを正しく認識しているのだろうか？」と。確かに、ことばは知っています。しかし、私たちはどのように生きることが神の栄光を現わすことになるのかということを知っているのでしょうか？

今日、この詩篇19篇のみことばを見て行く前に、そのことをごいっしょに考えたいと思います。というのは、そのことが実はダビデが私たちに教えようとする事だからです。イザヤがこのように告げています。イザヤ書43：7「わたしの名で呼ばれるすべての者は、わたしの栄光のために、わたしがこれを創造し、これを形造り、これを造った。」と。もちろん、イスラエルに対して神はこのように言われたのですが、神がイスラエルを選ばれたのは彼らを通してご自身の栄光を現わすためであったと言うのです。それはこの選ばれた民であるイスラエルを通して、実際に働いておられる主なる神を異邦人たちが見て、その主を崇めそのすばらしい主を誉め称えるためでした。そのために神はこの民を選ばれたのです。

実際にみことばを見たときに、そのような形で主がお用いになった人たちがたくさんいます。たとえば、ダニエルのことを思い出してください。主に仕え続けたダニエルに対して、ダリヨス王が最後にこのようなことばを発しています。ダニエル6：26-27「私は命令する。私の支配する国においてはどこでも、ダニエルの神の前に震え、おののけ。この方こそ生ける神。永遠に堅く立つ方。その国は滅びることなく、その主権はいつまでも続く。：27 この方は人を救って解放し、天においても、地においてもしるしと奇蹟を行ない、獅子の力からダニエルを救い出された。」、ダリヨス王はダニエルを通して働いておられる生きた神を見たのです。そして彼は、この神を誉め称えるのです。ダニエルの神です。つまり、こうしてダニエルは神の栄光を現わしていたのです。ダニエルが誉められたわけではありません。ダニエルのうちにおられるその神が誉められたのです。同じような例は聖書の中に何度も出て来ます。同じダニエル書にはシャデラク、メシャク、アベデ・ネゴのことが記されていますが、ネブカデネザル王は彼らのうちに生きて働いておられる神を見ました。創世記に記されているヨセフもそうでした。エジプト王のパロはヨセフのうちに働いておられる神を見たのです。

私たちが注目しなければいけないのは、人々がこのような人たちを見て彼らのうちに生きて働いておられる主を見、そして、その主を崇め誉め称えたということです。実際に、彼らはこのようなみわざを見ることによって、彼らの心が神に対して開かれてゆき、主を崇める者へと変えられていったのです。今私たちが見ていることはお分かりいただけますね？神の栄光を現わしていた人たちは、自分たちのうちに働いておられる神のみわざが明らかになることによって、人々がその神を見、そして、その神を崇めたことを目にしたのです。

まさにそれは、イエスが山上の説教で言われたそのことです。マタイの福音書5：16「このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行ないを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」。つまり、栄光を現わす生き方とは、私たちが神の前に正しく歩んで行くことによって、人々が私たちのうちに働いておられる神を見て、その人たちがその神を崇めるようになっていくことです。それが私たちが今学ぼうとしていることであり、また、みことばが教える「神の栄光を現わす」ということです。そうすると、皆さん、あなた自身が信仰者として考えなければいけないことは、あなたの周りの人々、職場でも学校でもご近所の方々でも、彼らが皆さんを通して主イエス・キリストを見ているかどうかです。あなたがもし、自分はクリスチャンであると告げたとき、「分かっていますよ。あなたが他の人とは違うことを…」と言われるような者かどうかです。

もしかすると、だれかは「へえー…あの人クリスチャンだって、あの人クリスチャン…？」と言うかもしれません。ですから、みことばが私たちに教えてくれるのです。私たちができることは、光である私たちが人々の前でその光を輝かせ、人々が私たちの良い行ないを見て、そして、神を崇めることです。なぜなら、そのような良い行ないは、神が私たちのうちに造り出してくださっているものだからです。だれ一人として神の愛をもって人を愛することはできません。だれも神の赦しをもって人を赦すことはできません。どんなことでも喜んで神のために為していく、そのようなことは神の助けがなければできないのです。そして、そのようなときに神が私たちのうちに働かれることによって、神ご自身の臨在

を、神ご自身の力を、私たちを通して明らかにしてくださるのです。信仰の人々はそのようにして生きて来たのです。そして、そのように生きるようにとみことばは私たちに教えるのです。

皆さん、あなたが遣わされているその場所にあつてあなたに与えられている大きな使命は、周りの人々が、あなたを通してあなたの主を見ることです。それが私たちの使命あり、それが神の栄光を現わしていくことだと言うのです。ダビデ自身、そのことを願っていました。そのことを強く望んでいました。人々が彼のうちに生きて働いておられる主なる神を見て、その神を崇めるようになることをダビデは願い、そのためのカギをこの19篇のみことばによって教えているのです。どうすればそのような歩みができるのでしょうか？ダビデ自身が望んでいたこと、ダビデ自身がそのように生きていた、そのことを私たちはここに見ることができます。

ダビデは主の栄光を現わしている二つのことをここに挙げています。一つは神による被造物であり、もう一つは神のみことばです。この二つを挙げて、どちらも神の栄光を現わしているとダビデは告げるのです。

## ☆主の栄光を現わすもの

### A. 被造物による啓示 1-6節

被造物によって、神がお造りになったものを通して、神ご自身のすばらしさが世に証しされている、被造物による啓示です。被造物は神のすばらしさを世に証しています。

#### 1. 自己啓示 : 自己紹介 1節

##### 1) 被造物

1節にはこのように記されています。「天は神の栄光を語り告げ、大空は御手のわざを告げ知らせる。」と。「天」と「大空」とダビデは記しています。ある人たちはこの「天」とは恐らく「太陽、星、宇宙」を指していると言い、「大空」は「雲、大気圏」ではないかと言います。そのような区別をしようとし、しかし、大切なことは、神がお造りになったそのすべてのものが何をしているかということです。ダビデはそのことを伝えなかったのです。神が造られたものは確実に、神のすばらしさを証していると。

##### 2) 創造主 : 神

面白いのは、この1-6節までは「神」と記されていますが、7節からは「主」に変わっていることです。1節に「天は神の栄光を語り告げ、」とありますが、ここで使われている「神」ということばは「エル」というヘブライ語です。神の名前として、

・「エロヒム」：「神の力」、「力あるお方」という意味をもったことばです。

「天は神の栄光を語り告げ、」⇒神ご自身の力を現わしています。

・「エル・シャダイ」：これは「全能の神」を意味します。

「大空は御手のわざを告げ知らせる。」⇒主の知恵を示しています。

どちらも「エル」とは神です。この1節でダビデが言うことは、この宇宙、この大空を見たときに、そこで教えられることは、私たちの神の御力だということです。私たちの神はどれ程力を持っておられるお方か、そのことを見ることができると言うのです。この宇宙は神ご自身の力を示している、神はその力をもって宇宙のすべてをお造りになった創造主であることを被造物は明らかにしているというのです。ですから、思い出してください。パウロはローマ人への手紙1章でこのように言っています。20節

「神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。」。神がお造りになったその被造物を見ると、私たちはその神の力の偉大さを見ることができます。そして、そこに存在する物を見ると、そこに神の創造の偉業を見ます。

2節から、興味深い表現が記されています。

#### 2. 継続した啓示 : この働きは止むことがない 2節

・「昼は昼へ、話を伝え、」：何のことを言っているのでしょうか？伝えることが多すぎるということです。つまり、神の偉大さは一日で語り尽くすことができない、それ程神は偉大だということダビデは言わんとしているのです。私たちは昼間にたくさんの神の創造物を見ることができます。その被造物を通して我々が知る神の偉業、それは一日では語り尽くすことができないと。ですから、まさにそれが継続して、その神のすばらしさが語り継がれている様子です。それ程神は偉大だとダビデは言うのです。

・「夜は夜へ、知識を示す。」：また、「夜は夜へ」と言っています。私たちは夜に神が造られた星を見ます。満天の星を見上げるときに私たちは創造主なる神の知恵を覚えるのです。

見事にバランスが取れています。ですから、ダビデは神がお造りになったもの、昼の間に見えるもの、夜の間に見えるもの、そのすべてを見て彼は「神のすばらしさを語り続けるなら止まるところがない、私たちの神はそれ程すばらしいお方だ」と言うのです。

### 3. 明確な啓示 : 「分からない、知らない」とは言えない 3-6節

#### 1) 自然界 3-4 a節

3-4節にも、ダビデはまた面白い表現を使っています。ダビデはこうして明確な神の啓示を言わんとするのですが、なぜ、このような表現を使っているのでしょうか？人々が神について「分からない、知らない。神のことなど知らなかった、分からなかった。」というような弁解ができないためです。3-4節でこのように教えています。「:3 話もなく、ことばもなく、その声も聞かれない。:4 しかし、その呼び声は全地に響き渡り、そのことばは、地の果てまで届いた。」「神はそこに、太陽のために、幕屋を設けられた。」、確かに、この自然界は口を持っていません。ですから、私たちのように神のすばらしさをことばをもって語ることはできないけれど、神がすばらしいというメッセージは全世界に響き渡っている。あたかも口があるかのようにとダビデは言わんとするのです。

実は、このこともパウロがもう私たちに教えてくれたことです。ローマ人への手紙10:17-18「そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。:18 でも、こう尋ねましょう。「はたして彼らは聞こえなかったのでしょうか。」むろん、そうではありません。「その声は全地に響き渡り、そのことばは地の果てまで届いた。」、神のすばらしさはあたかも被造物が声を発しているかのように全世界に届いていると言うのです。だから、私たちは神の創造物を見るときに驚嘆するのです。その美しさに感動するのです。そこにメッセージがあるのです。神が造られた被造物からのメッセージです。

#### 2) 太陽 4 b-6節

今度はダビデは「太陽」へと話を移行していきます。

- (1) 幕屋を設けられた：4節の終わりに「神はそこに、太陽のために、幕屋を設けられた。」と記されています。ここで「幕屋」と訳されているヘブライ語は「天幕、テント」と訳せることばを使っています。天幕やテントは人々が休む所、人々が留まる所です。幕屋を太陽のために設けたということは、太陽が昼の間、あたかも空に留まっているかのように、ダビデは表現するのです。そして、5-6節を見ると、太陽を二つのたとえをもって話しています。「太陽は、部屋から出て来る花婿のようだ。勇士のように、その走路を喜び走る。」と、一つは「花婿のようだ」、もう一つは「勇士のように」とあります。
- (2) 花婿：5節「太陽は、部屋から出て来る花婿のようだ。」、つまり、「花婿」というたとえを使ったのは、結婚の日に花嫁を迎えに出かける花婿には活力があると、まさにそのようなものだと表現するのです。

- (3) 勇士：5節「勇士のように、その走路を喜び走る。」、また、「勇士」もどちらかと言うとランナーのように、疲れることなく、勝利を目指して走り続ける、走路を喜び走る、一生懸命に走る競技者のようなものだと言います。

だれがそのようにデザインされたのでしょうか？創造主なる神です。ダビデが言わんとしていることは、この天も大空も、そして、太陽も、このように神がお造りになり、そして、それらは神のすばらしさを証し続けていると言います。

- (4) 熱：6節「その上るのは、天の果てから、行き巡るのは、天の果て果てまで。その熱を、免れるものは何もない。」、太陽の存在がその熱によって明らかであるように、神の存在も被造物によって明らかだと言うのです。先に見たローマ書1:19-20でパウロが言った通りです。「なぜなら、神について知りうることは、彼らに明らかであるからです。それは神が明らかにされたのです。:20 神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。」。

ダビデがまず1-6節で教えようとしたことは、神によって造られた被造物は、創造主なる神の存在を、その知恵を、その御力を明らかにしている、そうして彼らは神の栄光を現わしている、その働きを為しているということです。自然界はちゃんとやるべきことをやっているのです。

ダビデは7節から今度は「みことば」のことに移行して行くのですが、なぜ、ダビデはこのように被造物に言及したのでしょうか？私たちは確かに、大自然を見たときに、神の被造物を見たときに、そこに創造主なる方がおられるということを教えられます。しかし、被造物を見るだけでは神について個人的に知ることに限界があります。この神について正確に、より深く知るためには限界があります。それ以上のものがが必要です。そこでダビデは「神は私たちがご自身を知るために別なものを与えてくれた」と言います。それこそが、主なる神が私たちに与えてくださった「みことば」です。私たちが神のこと

をより深く知るためには、被造物を通してだけでなく「みことば」が必要なのです。

## **B. みことばによる啓示 7-14 節**

神の栄光はこのみことばに、聖書のおことばの中に記されています。なぜなら、みことばを通して、私たちはこの偉大な神を知ることができるからです。初めに、ダビデはみことばの説明をして、その後で、みことばのみわざについて教えます。みことばとはどういうものを説明して、そのみことばがどのようなわざを成すのかということ伝えていきます。六つのことが記されています。ここから、「主」が主語となっています。

### **1. みことばの説明**

#### **1) 主のみおしえは完全 7 節**

「主のみおしえ」とは「おきて、律法」と訳せることばです。つまり、神が与えた教えは神のみこころを現わしています。神が何を望んでおられるのかを神は明らかにされたのです。ですから、「主のみおしえは完全だ」と言ったのです。この聖書のみことばを通して私たちは、神のみこころを知るのです。イエスを信じておられる皆さんのお一人ひとり、間違いなく神のみこころに従って生きようとしているはず。どうすれば良いのでしょうか？神のみことばに従うことです。注意しなければいけないのは、自分勝手な解釈をすることです。どういうことか？みことばの文脈を全く無視してある箇所だけを取ってその解釈をしてしまうことです。文脈の中でそのみことばが全く教えていないことを、そのみことばだけを取り上げて解釈してしまうことは非常に危険です。それは正しい解釈の方法ではないからです。みことばを知りたければ、その文脈でどのような話の流れがあって、そのような状況で話され、どのようなメッセージが語られているのか、そのことを正確に知らなければなりません。しかし、少なくとも私たちは、このみことばを通して神のみこころを知ることが出来ます。神のみおしえ、それは完全である、何一つ不足がない、すべてにおいて完成されたものであると言います。

#### **2) 主のあかしは確か 7 節**

「主のあかし」とあります。これは主ご自身によって語られたことです。だから、それは確かだと言うのです。だから、信頼出来るということです。「主のあかしは確かだ、主がお語りになったことは信頼できる」とダビデは言います。

#### **3) 主の戒めは正しく 8 節**

この「主の戒め」と次に出て来る「主の仰せ」は、どちらも主の權威を現わしています。なぜなら、この「戒め」とは道徳上の戒めです。「このように生きなさい」というその命令です。当然、私たちはそれに従うべき者であることは明らかです。神の道徳上の戒めというのは正しいと言います。なぜなら、善悪において完全であられる方の為される戒め、また、注意は完璧であることは明らかだからです。私たちなら、ことによっては正しいと思って言っていることが、もしかすると違う可能性があります。でも、神は何が正しくて何が間違っているのかが分かっておられます。その方が「これはダメだ」と言われるなら確実に駄目なのです。神の戒めは正しいと言うのです。

#### **4) 主の仰せはきよく 8 節**

「主の仰せ」、これも命令ということです。神からの命令、それはきよいと言います。神が命じられることには、人間のように私利私欲など含まれていません。不純なものが含まれていません。だから、ダビデはそれはきよい、ピュアだと言うのです。

#### **5) 主への恐れはきよく 9 節**

神のおことばというのは、それを正しく学ぶ者たちに神に対する恐れを生み出すのです。ですから、神の前に正しく歩みたいと思っている人の内側からは、その方に対する畏敬の念が生まれて来るということです。

#### **6) 主のさばきはまこと 9 節**

「主のさばき」も主が下される裁定のことです。ダビデはここで、私たち一人ひとりの人生に神は必ず裁定を下されるということを知っています。あなたも知っておられるように、私たち一人一人は例外なく神の前に立つのです。私たちイエス・キリストの恵みによって救われた者たちも神の前に立って、そこで私たちの罪がさばかれます。もちろん、それは永遠の滅びに至るためではなくて、すべてのことが明らかにされるのです。そして、私たちの主に対する働きに対して、神は大きな報いを与えてくださるのです。感謝なことは、私たちはそのさばきによって永遠の地獄に行くことがないということです。私たちはもう救いに与っています。しかし、私たちが分かっていることは、一人ひとりが神の前に立ったときに、私たちは神のみことばに従ったかどうかによってさばかれるということです。

ダビデは「主のさばきはまことである」と言います。つまり、ことごとく正しいということです。神が為されるさばきは常に正しいのです。

今、六つのことを見て来たのですが、「主のみおしえ」、神が与えられた教えは神のみこころです。だから、それは完全なものであるし、主が語られたそのあかしは、神が語られたものだから信頼出来ると言います。主が与えてくださる道徳上の様々な戒め、また、主が私たちに下される命令、それはどちらも正しく神の前にきよいものであると言います。そして、このみことばは、私たちにきよい恐れを生み出し、そして、必ず神のさばきがあるというこの事実は、私たちに今日を正しく生きて行こうという思いをもたらすのです。ダビデはこうして六つのみことばに対する説明を加えて、みことばとはこういうものなのだと言います。みことばとはあなたに神のみこころを教えるものです。みことばとは神がお語りになったものです。神のメッセージです。みことばはあなたにどのように歩んでいくべきなのか、そのことを教えてくれます。道徳的にどのように歩んでいくべきなのか…。そして、みことばは私たちに神が何を望んでおられるのか、神の命令を明らかにします。そして、みことばは感謝なことに、持つべき神への恐れをもたらしてくれます。そして、私たちは神の審判があることを覚えるときに、その方の前に正しく生きていこうという思いを抱くのです。

これらはすべて、主なる神のご性質を反映しています。

## 2. みことばの為すみわざ : 六つのみわざ

私たちは六つの、みことばとはどういうものなのかという説明を見た後、今度は六つの、みことばがどのような働きを為すのかという、ダビデの教えをじっくり見たいと思います。しかも、今から見て行く六つのみわざは、継続して、持続して為され続けるみことばの働き、わざです。

### 1) たましいを生き返らせ

7節「主のみおしえは完全で、たましいを生き返らせ、」、完全な主のみおしえは、たましいを生き返らせるというのです。みことばによって、人は救いへと導かれ、造り変えられ、新しくされて行くのです。同時に、救われた者は、罪の誘惑から勝利を得ることができます。ここで使われている「たましいを生き返らせ、」ということばは、詩篇23:3にも出ています。「主は私のたましいを生き返らせ、御名のために、私を義の道に導かれます。」と。いのちの活力を呼び起こすというのです。つまり、もし、私たちがみことばを正しく学んでいくなれば、みことばを通してあなたが生きていくなれば、あなたのうちなるあなたの心はいつも力にみなぎっているというのです。希望がない生き方ではなく希望をもって生きるのです。私たちは神の力をいただきながら生きることができるのです。どうしてそのような活力をもって生きることができるのでしょうか？それは、体調が良いとか、何か薬を飲んでいたりとかではなくて、神が私たちの内側を強めてくださるのです。私たちの信仰を強めてくださるのです。

どんなときにも喜びを失わない、希望を失わない、感謝をもって生きていく、そのような生き方を私たちにもたらしてくれるのは神のおことばだと言うのです。

### 2) わきまえのない者を賢くする 7節

7節「主のあかしは確かで、わきまえのない者を賢くする。」、この「わきまえのない者」とは、間違った教えに惑わされる人、直ぐに欺かれてしまう人、欺され易い人という意味です。ですから、「賢くする」というのは、誤った教えに対して、何が神のみこころなのかをしっかりと見つけて、それを選択できる、そういう人に聖書のみことばは変えていくというのです。ですから、霊的に成長した人とは、様々な偽りの教えが周りから入って来ても、そのような教えに惑わされることのないのです。何が神のみこころなのか、何が神の教えなのかを知っているのです。また同時に、主に喜ばれることを判断する知恵を持っている人です。最初は、何が神の前に喜ばれることなのか分からない、しかし、みことばによってその人が成長することによって、何が神に喜ばれることかを正しく判断することができる、そのような知恵を持った人に変えられていくのです。

### 3) 人の心を喜ばせ 8節

8節「主の戒めは正しくて、人の心を喜ばせ、」、みことばによってあなたの心は喜ぶというのです。なぜなら、あなたが主を喜ばせることによって、あなた自身の心が喜びに満たされるからです。あなたがみことばを学び、みことばに従っていくときに、神の前に喜ばれることを為すことによって、あなた自身の心が喜びに満たされるのです。それは皆さんも経験されているでしょう。言いようもない喜びに満たされているときは、間違いなく、あなた自身が神の前に正しく生きているからです。気をつけなければいけないことがあります。私の望みがかなったから、自分の思い通りになっているから、自分の祈りが聞かれたから、確かに、そのときに喜んでいますが、その喜びが本当に神から来たものならそれは持続します。でも、私たちがこの世で経験する喜びは、神からのものでなければ一瞬で消えていきます。みことばが私たちに教えることは「みことばによってあなたの心は喜び続けていく」です。みことばはそのようなみわざを為すと言います。

### 4) 人の目を明るくする 8節

8節「**主の仰せはきよくて、人の目を明るくする。**」、みことばは私たちに神の真理を示してくれます。ちょうど、光を当てるように。何が正しいのか分からないときに、みことばは私たちに光を与えてくれて、どのように生きて行けばよいのかという、そのことを示してくれます。詩篇119：105に「**あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です。**」とある通りです。「人の目を明るくする」と。

#### 5) とこしえまでも変わらない 9節

9節に「**主への恐れはきよく、とこしえまでも変わらない。**」とあります。主のおことばは変わることがないと言うのです。時代がどのように移り変わろうとも…。イエスが言われた通りです。マタイ24：35「**この天地は滅び去ります。しかし、わたしのことばは決して滅びることがありません。**」と。この変わらないみことばによって、私たちは自分自身の罪が示されるだけでなく、神が明らかにされることによって私たちはこの方に対してきよい正しい恐れを抱くのです。それは時代を越えて人々のうちに主のみことばが為して来たみわざです。

#### 6) ことごとく正しい 9節

9節「**主のさばきはまことであり、ことごとく正しい。**」、先にも触れましたが、さばきがあることを覚えるときに、私たちは「今日、主の前を正しく歩んで行こう」という動機を神からいただきます。

信仰者の皆さん、今私たちが覚えなければいけないことは、神のおことばはこのよなわざを為すということです。皆さん、思いませんか？どうして、歴代の信仰の勇者たちは神のおことばをそれ程愛したのでしょうか？新約の時代だけでなく旧約の時代においても、人々がみことばを徹底的に愛したのはなぜでしょう？彼らはこのような聖書の力を知っていたからです。信仰者の皆さん、どうぞ覚えてください。あなたのうちに喜びがないのは、あなたの環境が問題ではないのです。良く考えてください。どれだけの時間をみことばと過ごしているかです。みことばを読んでいるかもしれない。でも、いつまで経っても神と一対一で向き合っていない。デボーションの本を使うことは良いでしょう。でも、成長すればそのようなものを離れて、私たちは神のおことばを直接聞きたくなるのです。なぜなら、私たちは人の意見よりも神の声を聞きたいではないですか？そのような関係に私たちはなったのです。この神からのメッセージはあなたに直接与えられたものです。私たちはこれを通して神のみこころを知るのです。実感していますか、皆さん？「神は私とともにいてくれる。こんなにすばらしい個人的な交わりを私は神からいただいた。それを楽しむことができる。今日、早く神との時間を持ちたい。神のみこころを知りたい。神が言われることを私は聞きたい。」と、そのようにして勇者たちは生きて来たのです。

みことばはそのような大きな働きを為すのです。これは神ご自身のみこころが記されているのです。神が直接語られたメッセージです。このみことばによって私たちは、この世のいかなるものをもっても得ることが出来ない喜びを得ることが出来るのです。このみことばは、私たちがどのように生きて行けばよいのかというその道しるべなのです。このみことばによって、私たちはもつべき神への畏敬の念をもちます。そして、私は神の前に立つという事実によって、今日正しく生きていこうと襟を正すことになるのです。「聖書はこのよな働きを為す」と、そのことばはダビデの口から出て来ました。彼は知っていたのです、聖書のすばらしさを。彼は知っていたのです、このみことばの力を。問題は、私たちも同じよな思いをもって聖書に接しているかどうかです。

#### 3. みことばのすばらしさ 10-11節

その後を見てください。みことばのすばらしさを10-11節でダビデはこのように言います。「**それらは、金よりも、多くの純金よりも好ましい。蜜よりも、蜜蜂の巣のしたたりよりも甘い。:11 また、それによって、あなたのしもべは戒めを受ける。それを守れば、報いは大きい。**」、彼はここにみことばのすばらしさを三つ上げています。

1) **最高に価値がある**：10節「**金よりも、多くの純金よりも好ましい。**」、金や純金を得るよりももっとすばらしい。金や純金によって私たちの生き方は変わらないからです。いや、悪い方に変わっていくかもしれません。しかし、みことばによっては私たちの生き方が正しい方向に、永遠に価値ある方向へと私たちを導いてくれるから価値あるものだと言うのです。

2) **最高の満足をもたらす**：10節「**蜜よりも、蜜蜂の巣のしたたりよりも甘い**」と言います。私たちはそのようにみことばを見ているでしょうか？「みことばがあったらそれで十分だ。聖書のことばがあったらそれで十分だ」と、私たちはそのように思っていますか？ダビデのことばを借りるなら、あなたの心が本当に満ち足りたものになるには、どれだけ銀行の預金があるかではないのです。どれだけすばらしい保証がされているかではありません。神のおことばによるのです。神のおことばによってあなたは強い確信を持つからです。神のみことばによって「私の神はこんなに偉大な神だ」ということを知れば知る程、私たちはその方にすべてを委ねて歩めることがどんなにすばらしいことかを教えられていくからです。私たちの信仰の歩みはそのことを学び続けていると思いませんか？本当の満足は神がもたらして

くれるのです。その神の満足をいただくためには神がくださったこのみことばを何よりも愛すること以外にはないのです。私たちは神以外のところにそれを求めている可能性があります。

3) **最高の祝福をもたらす**：11節「また、それによって、あなたのしもべは戒めを受ける。それを守れば、報いは大きい。」。みことばは確かに私たちに私たちの罪を示してくれます。そして、私たちはその示されたことを神の前に告白して正しく歩んでいこうとします。神がこのように生きなさいということに従って生きていこうとします。そのときに神は私たちに大いに祝してくださるのです。「それを守れば、報いは大きい。」と。もし、あなたが神の前に立って大きな祝福をいただくとするなら、いろいろな奉仕をすることも大切ですが、一番大切なことは、みことばに従うことです。神の質問は「わたしの命令に忠実でしたか？」です。「いや、私はこんな働きもし、こんな奉仕もしました。こんなことを、あんなことをしました。」と言っても、神の質問は「わたしに忠実でしたか？」です。

多くのクリスチャンたちは、みことばはさておいていろんな奉仕をすることに満足をもっています。そこに自分たちの目を向けています。これだけのことをしているからきっと神は喜んでくださり祝してくださるだろうと。残念ながら、聖書はそのようなことは教えていません。聖書は、神のみことばのその教えに忠実であったかどうかを教えてください。それが私たちが神の前で問われることです。みことばが為すことは、私たちがどのように生きていくのかを教えてください。そして、そのように歩むなら豊かな祝福を受けると言います。

#### 4. みことばへの態度 12-14節

みことばへの態度が三つ記されています。

1) **みことばによって自らを吟味する**：12節「だれが自分の数々のあやまちを悟ることができましょう。どうか、隠れている私の罪をお赦してください。」、ダビデはここでみことばによって自らを吟味しようとするのです。何のためにですか？主の前に正しくあるためにです。「だれが自分の数々のあやまちを悟ることができましょう。」と修辞法を用いています。答えは明らかです。だれも自分自身でそのすべての罪を知ることにはできない、知らず知らずのうちに犯している罪もたくさんあるからです。では、どうすればいいのでしょうか？私たちは神に助けを求めなければいけないのです。なぜ、「どうか、隠れている私の罪をお赦してください。」などと言うのでしょうか？このダビデは神の前にすべての点で正しくありたいからです。だから、彼はこのみことばによって自分を吟味しようとするのです。皆さん、そうでしょうか？みことばを読んでみると、みことばはあなたの間違っているところを指摘してくれます。もし、あなたが主の前に正しく生きたいと思ってみことばを読んでいたら、神はみことばを通してあなたに変えるべきところを示してくださるのです。

2) **みことばによって罪と戦う**：13節「あなたのしもべを、傲慢の罪から守ってください。それらが私を支配しませんように。そうすれば、私は全き者となり、大きな罪を、免れて、きよくなるでしょう。」、みことばは私たちが罪から守ってくれるのです。詩篇119：11に「あなたに罪を犯さないため、私は、あなたのことばを心にたくわえました。」とあります。そのようにして私たちは罪と戦うのです。パウロはエペソ人への手紙6：17で「救いのかぶとをかぶり、また御霊の与える剣である、神のことばを受け取りなさい。」と言っています。私たちは神のことばをもって罪と戦うのです。そして、感謝なことに、あなたがしっかりみことばに立っているなら、罪に、誘惑に勝つことができると言います。ダビデは「このような罪が私を支配しないように」と、特に「**傲慢の罪**」と言っています。プライドがどれ程危険であるかということを知っているからです。

3) **みことばによって生きる**：14節「私の口のことばと、私の心の思いとが御前に、受け入れられますように。わが岩、わが贖い主、主よ。」、なぜ、このような祈りをしたのでしょうか？そうです、これはダビデの祈りです。それは彼自身が主の前に喜ばれる者となるためです。ダビデは自分のことばも、自分の心も、また、思いも神の前に正しくあり続けることを望んでいました。そして、そのためには主の助けが必要であることを知っていました。そこで、彼はみことばを正しく学んでみことばをしっかり蓄え、そして、記されているみことばに従うことによって、主に喜んでいただける者になろうとしたのです。ダビデはこの14節で、そのように歩んで行くことを願って主の前にこのような祈りをささげたのです。

◎みことばは、

- ・ **罪を示す**：1ペテロ1：23「あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく、朽ちない種からであり、生ける、いつまでも変わることはない、神のことばによるのです。」
- ・ **神への知識を増す**：1ペテロ2：2「生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。」

最後のところに「わが岩、わが贖い主、主よ。」とありますが、ダビデはこのような願いを主が聞いてくださることを確信しています。主が助け手くださることを知っています。なぜなら、私の主は私を守っ

てくださる方であり、私を救ってくださった方であり、私の主であると確信しているからです。

詩篇 19 篇という大切なところを今日見て来ました。まとめるとこのようになります。ダビデは、神の栄光はこの自然界という被造物によって明らかだと言いました。自然界を見ると、被造物を見ると、神の栄光はそこに明らかに示されていると言います。自然界は被造物は一生懸命神のすばらしさを現わしていると。また同時に、神の栄光はみことばによって明らかに示されていると言います。なぜなら、みことばを見ることによって、私たちはこの創造主なる神がどんなに偉大な方かを知ることができるからです。

次のことを考えてください。この自然はその創造の目的に沿って、これまで一生懸命、神とはどんなにすばらしい方かをすべての人々に示し続けてくれました。それを見るときに、神がおられること、すごい神がおられるということを私たちは知ります。聖書のみことばは私たちに、この神がどんなにすばらしいお方であるかを教え続けてくれています。神の栄光を現わし続けています。問題は次のことです。あなた自身、救いに与ったあなた自身はこの神の栄光を現わしているかどうかということです。最初に見たように、神はあなたを通して神のすばらしさを世に証しようとしておられます。被造物がそうであるように、聖書がそうであるように…。問題は救われた私たちなのです。私たちが、私たちの神はこんなにすばらしい方だということを、ことばだけでなく、私たちの生き方をもって明らかにしているかどうかです。

マタイの福音書 5 章でイエスが言われたことは「人々があなたがたの良い行ないを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」(5:16)です。ことばではありません。私たちがどのように生きるかです。その生き方をもって神の栄光を現わして行くのです。問題は、そのような生き方を私たちがしているかどうかです。何となく知識を蓄えてそれで満足していませんか？何となく知識を誇っていませんか？これだけのことを知っている。神の関心は、あなたはどうか生きるかです。どのような信仰者としてどのようにキリストの栄光を現わしているかです。

もし、あなたがこのようなすばらしいみことばをダビデが告白したようにしっかりと学び、正しく理解し、そして、それを心から実践していくなら、主はあなたを通してご自身の栄光を現わしてください。なぜですか？あなたが主に喜ばれる者へと変えられていくからです。あなたの生き方が主のみこころに沿ったものとなっていくからです。ダビデが最後に望んだことは何でしたか？「私の口のことばと、私の心の思いとが御前に、受け入れられますように。」です。これはあたかも「いけにえ」のような表現です。ダビデは自分のすべてをささげているのです。「主よ、どうぞ、私を受け入れてください。このように罪深い者ですが、主よ、どうぞ受け入れてください。なぜなら、私はあなたの助けによって私の為すことがあなたの前に喜ばれるようにと願うからです。もちろん、私のことばもそうですが、私の生き方があなたの前に喜ばれますように。それはそのために救われたからです。」と。

最後の告白を見ると、ダビデは「私はあなたの栄光を現わすために生きて行きたいです。私はあなたを喜ばせる人として生きて行きたいです。主よ、あなたの助けが要りますから、どうぞ私を助けてください。」と言っています。皆さん、そのような祈りを持っていますか？そのような祈りをしながら生きていますか？そのような決心をしながら生きていますか？

この新しい年の初めに、今その決心をして生きてください！主に喜ばれる人として生きていこう、主の栄光を現わす人として私は今日から生きて行こうと、そのために必要なのはこれです。この聖書のおことばです。これ以外のものはありません。みことばを愛する者として、愛するゆえに、みことばをしっかりと学び、実践する者として今日から歩んで行ってください。あなたの成長はすべてここにかかっています。聖書を愛する者として、これに従う者として、新しい歩みを今日から始めてください。

#### 《考えましょう》

1. 「主の栄光を現わすこと」とは、どのようなことなのかを説明してください。
2. みことばはどのような働きを為すのかを記してください。
3. どうしてダビデは、みことばを愛したのでしょうか？その理由を記してください。
4. 主を喜ばせる者となるためには、どうすればよいのかを記してください。